



多様性を追求した「新たな教師の学びの姿」

— 令和5年度 京都府総合教育センター研修講座のポイント —

京都府総合教育センターでは、「令和の日本型学校教育」を担う教職員を支援をミッションに、令和5年度は、これまで以上に多様な形態の研修講座を実施します。



Point 1 Web+

55

先生方が都合のよい時間に指定動画を視聴する研修と、集合又はオンラインによるリアルタイムの研修を組み合わせた研修講座です。令和5年度は55講座実施します。



Point 2 学校DX

168

端末やアプリケーションの基本的な操作を学べる「初級コース」と授業や校務でのICT活用を学べる「中級・上級コース」受講できる研修講座を168講座実施します。



Point 3 デジタル
コンテンツ

86

授業や教材研究で活用できるデジタルコンテンツをセンターホームページに86本掲載しました。すべて、10分以内の動画で、教科指導や教育相談等多様なテーマの内容をコンパクトにまとめました。



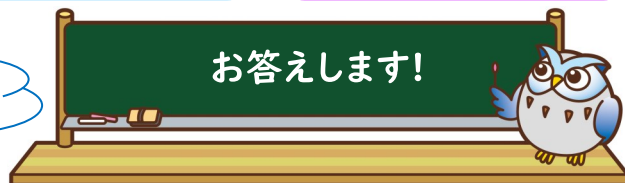
Point 4 eラーニング

NEW

新たに導入するeラーニングの外部サイト内で動画の視聴、確認テスト又はレポート等の課題を実施する講座です。導入初年度の令和5年度は9講座開講します。



これまでの研修と何が変わるの？



お答えします！



ニーズや勤務状況に合わせて、柔軟に学びのスタイルが選べます。勤務校を離れずに受講できるスタイルの研修講座を大幅に増やしました。研修内容に加えて、学び方も多様な研修講座で「新たな学びの姿」を追求します。



Q 研修に参加したいけれど、勤務校を離れることが難しいのですが。

A オンデマンド研修・eラーニング研修は、動画の視聴期間を設定しています。先生方の都合に合わせて受講いただけます。また、オンライン研修は、勤務校で受講いただけますので、移動時間を考えなくて済みます。リアルタイムで行う研修ですので、他校の先生方との交流も可能な研修です。



Q Web+研修って何ですか？詳しく教えてください。

A オンデマンド研修と、集合研修・オンライン研修を組み合わせた研修です。知識の習得は、オンデマンド研修で期間内に、いつでも何度でも受講できます。また、繰り返し視聴することができるので、聞き逃しの心配がありません。そして、集合研修・オンライン研修での他校の先生方との対話を通して、さらに学びを深めることを目指します。

Q 今までのようなセンター等に行く研修は無くなるのですか？

A 集合研修も引き続き実施していきます。研究協議や演習、実技・実習など、集合ならではの学びをさらにブラッシュアップし、実施します。

Q ICT機器の使い方を集中して学びたいと考えています。

A デジタル学習支援センターと連携した「学校DX研修」は、放課後の50分（主に16:00～16:50）を利用した短時間の研修です。初級・中級・上級のコースから先生方のニーズに合わせて受講することが可能です。



個別最適な
学び

学びたいことを学びたい時に
学びたい学び方で



協働的な
学び

日々の経験や他者から学ぶ
対話を通じて学びを深める



令和5年度「教職員研修計画」
又は京都府総合教育センター
ホームページ（ITEC）も合わせてご覧ください。



「新たな教師の学びの姿」

～教師自身の学び「研修観の転換」にむけて～



令和4年12月19日に出された中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する高い教職員集団の形成～」(以下、「令和4年答申」)から、「教師の研修等の在り方」に焦点を当てて解説します。

令和4年答申では・・・

「令和4年答申」には、令和3年1月26日の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」(以下「令和3年答申」)において、検討が必要とされた教職員の養成・採用・研修等の在り方の全体像が示されています。

「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿

【教師の姿】

- ・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている。
- ・子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。
- ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている。

【教職員集団の姿】

- ・多様な人材の確保、教師の資質・能力の向上により質の高い集団が実現されている。
- ・校長のリーダーシップの下、家庭や地域と連携しつつ学校運営されている。

(令和3年度答申)

実現に向けた 新たな教師の学びの姿

主体的な姿勢

変化を前向きに受け止め、
探究心を持ちつつ
自律的に学ぶ

継続的な学び

求められる知識技能が
変わっていくことを意識した
継続的な学び

個別最適な学び

新たな領域の専門性を
身に付ける
一人一人の個性に即した学び

協働的な学び

他者との対話や振り返り
の機会を確保した
協働的な学び

多様な専門性を有する 教職員集団

レジリエンスの向上

一人一人の専門性と教職員集団の多様性の向上
互いの強みを生かす組織づくり

自律的な成長への支援

校内研修の活性化
教職員と校長等による対話と受講奨励

子どもたちの学び(授業観・学習観)とともに、
教師自身の学び(研修観)を転換し、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」)を実現していくことが求められています。

また、これからの時代には、教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、教師自らがデザインしていくことが必要になります。

